

## 東京海洋大学「海の利活用研究に取り組む女性研究者支援」

海洋分野は環境・資源・エネルギーを含む重要な研究分野であり、そこで活躍する“海の専門家”を育成することが、日本で唯一の海洋系総合大学である本学に課せられた課題である。そこで、環境保全や自然との共生を「海を知る」「海を守る」「海を利用する」をモットーに、女性研究者の割合を19%程度に上昇させることを長期的目標に以下の3つの柱をたてて、海の利活用研究に取り組む女性研究者研究活動支援事業(平成23~25年度)を推進してきた。

### 【推進状況】

H21年に男女共同参画行動宣言、H23年に女性研究者支援機構発足及びライブイベント時の研究活動サポート開始により、低離職率の維持と女性研究者の増加を目指して、地道な学内環境整備・啓蒙活動等の取組を継続した結果、研究者ポスト数並びにそのポストへの女性研究者の応募が増加し、専任・非常勤の女性研究者数も増加した。これにより**博士研究員含む女性研究者の在職比率はH22年度15.3%からH25年度19.3%に上昇し目標を達成した。**

### 【取組内容】H23年度から現在まで

#### 1. ワーク・ライフ・バランスを理解するための学内環境づくりと意識改革

##### (1) 学内意識改革のためのイベントを開催し、両立支援の必要性への理解促進を図る。

- ・男女共同参画推進シンポジウム/子育て支援セミナー:H23年度2回/24年度2回/25年度1回開催。
- ・ランチタイムセミナー『アットホームラーニング&パワーランチ』を月2回多様なテーマで開催中。幅広い世代層の教職員や学生が参加。スキルアップと共にネットワークが広がり相談者数の増加につながった(H24年5月から42回開催。参加人数延316名)。

##### (2) 学内外への意識づけの活動、キャッチーな広報・啓発ツールの開発

- ・日常的に意識啓発を進めるための広報・啓発ツールを開発。手に取りやすいサイズや簡単に捨てられない形状やデザインの工夫により注目度を高めた。部署名に愛称とマスコットキャラクターを設定し情報発信を継続したことにより、学内外における本学の活動の認知度向上に寄与した。キャラクターを活かした「出産・育児支援ポケットガイド」を作成し全教職員に配布し、学内制度の認知度向上を図ったことにより、その後のRS制度利用者の掘り起しにも貢献した。
- ・女性研究者支援機構ホームページ『海なみnet』の運用、ニュースレター『海なみ便り』の発行(H24年から23号発行)を通じて、各種情報を学内外に積極的に発信している。

#### 2. 研究教育を継続するためのライブイベントと研究・教育の両立支援

##### (1) 人的サポート：研究サポーター(RS)制度/子育て・介護のため研究活動の継続が困難な研究者に支援員を派遣する制度。H24年度から運用を開始しH26年9月まで延べ17名利用。“少しでもいいから手を貸してもらえたら”の実現により、本学の**女性研究者の科研申請率がH23年度から14%、採択率が24%上昇**する等支援の効果が研究成果として形になりつつある。

##### (2) メンタルサポート：オレンジルーム/両立支援やキャリアアップ等に関する悩みに専任アドバイザーが学生から教職員まで幅広く相談に対応(相談件数:H24年1月開設~現在まで245件)。

##### (3) サポート施設：ペンギンルーム/仮眠・授乳・搾乳等一時休憩室や幼児用プレイルームを事務室内に併設し運営。H25年以降はイベント時に開設し延べ81名が利用(目的:オムツ替63%/授乳17%)。

#### 3. 女性研究者の裾野拡大とキャリアパス相談の充実

- ・『女子学生のためのキャリアパスセミナー』をH20年度より継続して(H23~26年で7回)開催。海洋関連の多様な女性研究者のロールモデル(H23~26年に22名)を紹介。ロールモデル集にまとめた。
- ・オープンキャンパスと同日開催し、中・高校生や保護者も含めたグループ懇談会において就活や受験も含め、キャリアパス相談を実施した。海洋実習が必須等、特徴あるカリキュラムをはじめ、先輩と直接話せる懇談会が好評で恒例となっている(H23~26年で計310名が参加)。

### 【今後の取組内容】~我が国の海洋関連研究機関における女性研究者支援を目指して~

- ・海洋関連分野(特に海洋工学)における女性研究者の増加のため、海洋関連研究機関と連携体制を構築し、対象者の増加のための活動及び、機関を越えた女性研究者のサポート、潜在的な女性研究者の掘り起しの活動に取り組む。
- ・船舶工学/生物/海洋資源/環境保全/物流輸送等、経済にも大きく関わる幅広い領域である海洋科学技術研究の発展に貢献できるように、地域をはじめ海洋関連機関と連携して、女性研究者支援及び男女共同参画事業を継続して推進して行く。

### 【連絡先】国立大学法人東京海洋大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援機構

TEL: 03-5463-0680 FAX: 03-5463-0698 E-mail: toiwase@uminamnet.jp

URL: <http://uminamnet.jp> [海なみnet]

# 海の利活用研究に取り組む 女性研究者支援

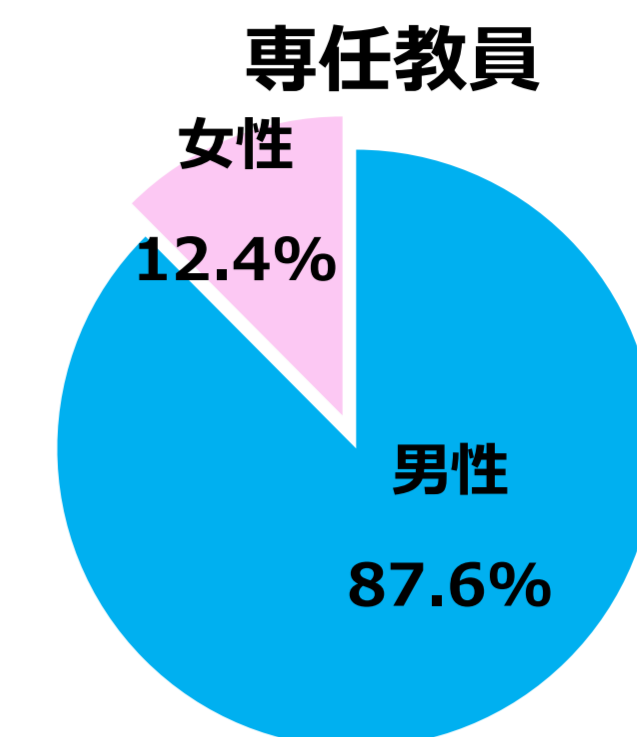
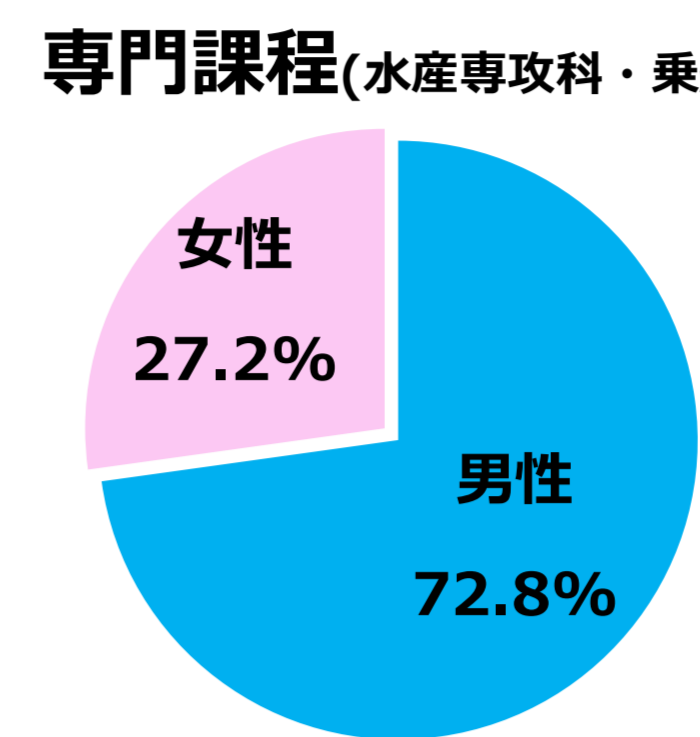
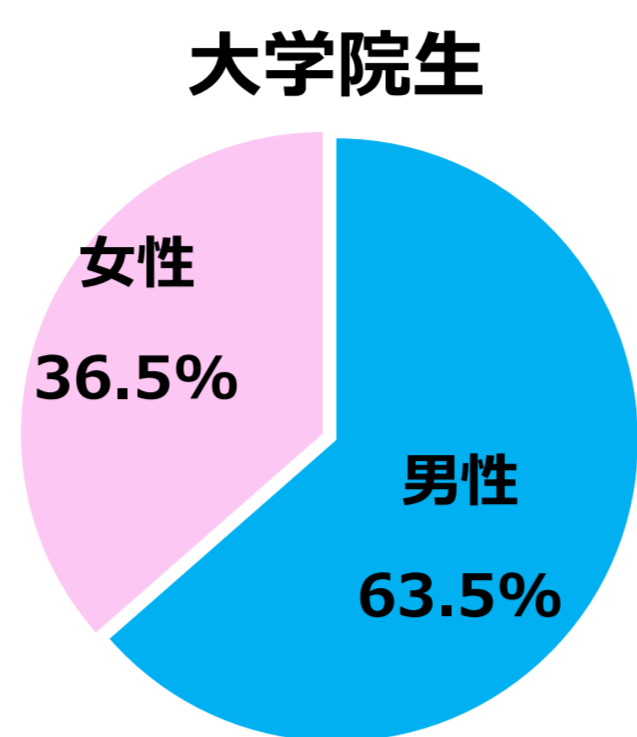
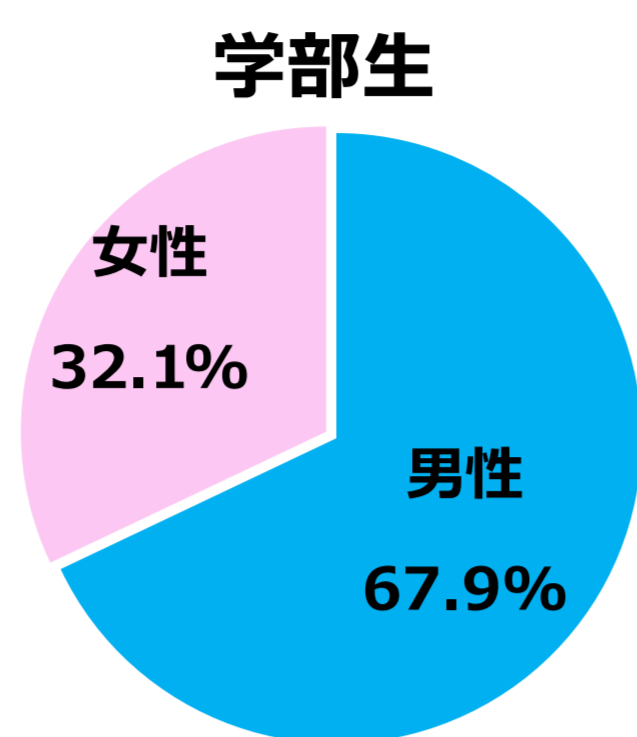


東京海洋大学は**日本で唯一の海洋系総合大学**です。  
[海を知る・海を守る・海を利用する]をモットーに、環境保全や自然との共存を図り、海洋の利活用研究に取り組む女性研究者の支援活動を行っています。

「海なみ」正式名称は ↓  
「国立大学法人東京海洋大学男女共同参画推進室女性研究者支援機構」  
呼びやすいように「海なみ」と愛称を付けました。  
(日本で唯一の海洋総合大学であり「波」が大学のシンボルマーク)  
学内でも「海なみ」と呼ばれ、定着してきました。

## 海洋系総合大学である東京海洋大学の構成 および女性比率 (H26年5月現在)

<学部> 2学部・7学科: 海洋工学部(越中島キャンパス)  
海洋科学部(品川キャンパス)  
<大学院> 博士前期課程7専攻/博士後期課程2専攻  
<専門課程> 水産専攻科/乗船実習科



海なみマスコットキャラクター  
みなみ

## 女性研究者研究活動支援事業(H23～25年度)の取組、H26年度も継続実施中

### 意識改革

ワーク・ライフ・バランスに対する理解  
学内外の意識改革のため、  
特徴ある男女共同参画推進シンポジウムを5回開催(H23-25年度)

| 開催日            | 場所  | テーマ   | 参加人数 |
|----------------|-----|---|------|
| H23(2011)年度    |     |   |      |
| 2012/01/26 (木) | 品川  | キックオフシンポジウム<br>協働する環境づくりのために<br>～これからの時代に即した東京海洋大学の男女共同参画について考える～ | 70人  |
| 2012/03/26 (月) | 品川  | 日本水産学会共催<br>男女共同参画推進シンポジウム<br>なぜいま男女共同参画推進が必要なのか? ～水産分野の事情～       | 40人  |
| H24(2012)年度    |     |   |      |
| 2012/08/08 (水) | 品川  | 子育て支援セミナー<br>教育・研究と子育ての両立をめざして                                    | 30人  |
| 2012/11/14 (水) | 越中島 | 子育て支援セミナー<br>教育・研究と子育ての両立をめざして<br>～イタケムからトーク～                     | 30人  |
| H25(2013)年度    |     |   |      |
| 2014/03/05 (水) | 品川  | 多様性社会の中で海洋開発機関が取り組むべき女性研究者支援を考える『海と共に生きる女性研究者たちの今、そしてこれから。』       | 90人  |

海洋関連の女性研究者支援の課題についてパネルディスカッションを行いました

海外の子育て事情の違いについてディスカッションを行いました

### スキルアップのためのランチタイムセミナー『アットホームラーニング&パワーランチ』

(H24.5月～現在まで42回開催、参加人数延316名)

### 学内外への意識啓発&情報提供

広報・啓発ツールの開発  
見せる工夫で「海なみスタイル」を印象づけるPR活動を拡充

ホームページ「海なみnet」から情報発信

ニュースレター『海なみ便り』発行 (H24年5月から23号発行)

「出産・育児支援ポケットガイド」を作成し、全教職員に配布  
学内規定周知理解に貢献

### マンパワーでサポート [RS制度]

研究サポーター(RS: Research Supporter) 制度  
『少しでもいいから誰かに手を貸してもらえたら』の実現

RS制度

- 研究サポーターを求める方 (RS制度の利用者)  
対象: 東京海洋大学の専任教員 准教授 准助教 助手
- 研究サポーターになりたい方 (研究者の支援者)  
対象: 東京海洋大学に所属する ポストドク 大学院生他

研究者が感じている効果

| 利用月人数              | 支援員(RS) | 研究者(利用者) |
|--------------------|---------|----------|
| トライアル(H24.4～8)     | 5       | 10       |
| H24年度第1期(H24.9～12) | 16      | 20       |
| H24年度第2期(H25.1～3)  | 12      | 15       |
| H25年度第1期(H25.4～7)  | 16      | 16       |
| H25年度第2期(H25.8～11) | 12      | 12       |
| H25年度第3期(H26.1～3)  | 12      | 12       |

### 両立支援

科研費申請数が増加し採択率もH23年度から24%上昇するなど、サポート体制の効果が、研究成果として形になってきています。

### メンタルサポート [オレンジルーム]

ライフイベントと仕事の両立やキャリアライフについての相談サロン

キャリアアップに関する悩み他、学生から教職員まで幅広く専任アドバイザーが対応  
(H24年1月開設～現在までの相談件数: 241件)

相談者の内訳

### サポート施設 [ペンギンルーム]

一時休憩室/幼児用プレイルーム

イベント開催時のペンギンルーム利用者は、H24年度以降、延べ278名

## 女性研究者&卵たちへ裾野拡大 ～未来の“海の専門家”育成のために～

女子学生のためのキャリアパスセミナーを開催し、多様なロールモデルを紹介  
『女子学生のためのキャリアパスセミナー』は、H23年度から7回開催  
講演者23名、うち本学卒業生 17名 (海洋工学部: 9名、海洋科学部: 8名)

講演の後は、学生・保護者も交えたグループ懇談会を実施。受験のきっかけから、キャンパスライフ、就活や仕事、子育てとの両立についてと、聞きたいことを“あこがれの先輩”に直接聞くことができるスタイルが大変好評を得ています。

しかし、工学系への女子進学率低調のため、海事・電子機械工学分野では**そもそも女子学生が極端に少ない**ため、構造的に女性教員も少なくなります。また海洋科学系分野でも、乗船を伴う沿岸域でのフィールドワークがあり、**ライフイベントとの両立が難しい**場合があります。

### そこで

関連機関との連携による、海の利活用研究に取り組む女性研究者支援、そして、これから。  
～我が国の海洋関連研究機関における女性研究者支援をめざして～  
海なみスタイルの継続と拡充による、新たな連携「海洋研究機関アライアンス」の構築

- 1) 海洋研究機関アライアンスによるRS制度の運用
- 2) 潜在的な女性研究者の掘り起こし
- 3) 上位職登用に向けたマネジメントセミナー

女性研究者支援のネットワークを強化する